



2023年度(2023年4月～2024年3月) 寄附募集実績について

寄附総額

10,748,773円

企業・団体 53件

15.9%

個人 281件

84.1%

寄附の使途指定割合



2023年度 寄附報告

2023年度は、334件、10,748,773円のご支援をいただきました。前年度より寄附件数はやや減少しましたが、寄附総額はほぼ横ばいとなり、年間目標寄附額の1000万円を達成することができました。寄附の使途別割合は、使途を指定しない「学園全体」への寄附が最も多く約3割となりました。

昨年度は新型コロナウイルス感染症が5類となり国際交流も一層活発化しましたが、円安に伴い、本学園から海外に留学する学生・生徒にとって厳しい経済環境となりました。また、物価高騰により、本学園における調達事業でも様々な影響がありました。こうした困難な経済状況の中、皆様からの温かいご支援により、「ICグローバル人材育成奨学基金」を活用した奨学金給付事業やグローバル教育支援事業を実施することができました。また、「IC未来サポート基金」で、大学をはじめ、高校やキアラ館の備品の更新や新規購入、キャンパス環境の整備に活用させていただきました。引き続き、皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。なお、本寄附事業の寄附残額は、37,643,648円(2024年3月31日現在)です。



ローガン・ファックス記念講堂の寄附者
銘板に対象者(単年度累計で個人10万
円以上、法人50万円以上)のご芳名を
掲載しております。

年度別寄附件数・総額



2023年度 寄附事業報告

ICグローバル人材育成奨学基金

1. 海外へ留学する学生・生徒への奨学金事業

	給付人数	給付総額
大学・大学院	22名	1,350,000円
高等学校	13名	1,850,000円

2. 海外からの留学生への奨学金事業

出身国	給付人数	給付総額
ベトナム	4名	960,000円
ウクライナ	3名	440,000円
インドネシア	3名	720,000円
イタリア	2名	240,000円

3. グローバル教育支援事業

内容	金額
認定こども園 「HIP HOP DANCE IN ENGLISH」	156,582円

<訂正> Donation News 2020に掲載した「2019年度寄附事業報告」において、ICグローバル人材育成奨学基金「1. 海外へ留学する学生・生徒への奨学金事業」の表中、大学・大学院および計の給付人数・給付総額に誤りがありました。正しくは、22名・1,100,000円および32名・2,950,000円です。訂正してお詫びいたします。

IC未来サポート基金

1. キアラ館

内容	金額
諸室のイス交換	342,100円



2. 大学・大学院

内容	金額
8号館イス・テーブル設置	999,900円

※寄附者使途指定事業です。



公式戦用ユニフォーム



4. 学園全体(使途指定なし)

内容	金額
旧大学カウンセリング研究所前 モニュメント移設	242,000円



3. 高等学校

内容	金額
男子バレーボール部 ユニフォーム更新及び備品購入	300,000円

※寄附者使途指定事業です。

インドアバレーボール用アンテナ



公式ボール



デジタルタイマー



教育振興資金

内容	金額
施設拡充、教育活動支援等教育環境整備	1,360,000円

2023年度の本学園の主な教育環境整備については、「事業報告書」をご覧ください。

事業報告書URL

https://www.icc.ac.jp/edu/about/disclosure/business_report/index.html



「キアラ館」が竣工50周年！を迎えました

孤高の建築家・白井晟一氏が設計した学園のシンボル「キアラ館」が今年、竣工50周年を迎えました。50周年を記念して、本学園では各種記念イベントを開催いたします。そこで、記念イベントや寄附事業であるキアラ館基金、キアラ館の今後について、キアラ館内にあるキリスト教センターのセンター長である野口チャブレンに伺いました。なお、キアラ館基金では、皆様からのご寄附をキアラ館の修繕や整備等に活用しています。竣工50周年を迎えたキアラ館の維持・活用のため、皆様のキアラ館基金へのご支援をお願い申し上げます。

Q1. キアラ館が今年竣工50周年を迎えた感想をお願いします。

A1: 50年と言えば、それは「半世紀」に当たりますので、まさに、“歴史”を感じます。ことに、オイルショックによる物価高騰の煽りを受け、白井建築を一時断念せざるを得なかった時は大変だったと思います。しかしながら、結果的に、それらの大きな試練を乗り越えて、建築家・白井晟一氏によるキアラ館建築に漕ぎ着けた時は、言うなれば「その時、歴史は動いた！」というような瞬間だったのでないでしょうか？キアラ館建築に関わった有名無名の先人たちのご苦労を想うと、感慨無量です。そして、そんな50年間の永きに渡り、学園の歩みを見守ってくれたキアラ館に、まずは「お疲れ様！」、そして「これからもよろしく」と言いたいと思います。

Q2. 竣工50周年記念イベントはどのようなことを行いますか？

A2: 最たるもののは、学園祭の初日(11/2)の午後に予定している記念レクチャー＆コンサートでしょう。キアラ館礼拝堂を会場に、白井晟一氏の孫で、現在、白井晟一建築研究所(アトリエNo.5)代表である白井原太氏による講演と、キアラ館の建築・施工に当たった竹中工務店のコーラス部による演奏を行なう予定です。また、その日に前後した期間限定で、キアラ館2Fアッパールームにて、学園資料センター主催のキアラ館に関するパネル展開催も計画しております。さらには、学園キリスト教センター主導で、随時、キアラ館に特化した大学チャペルを実施したり、アドヴェントの時期には、キアラ館専属のオーケストラ「シンフォニエッタ・キアラ」(指揮：佐藤希久雄教授)による特別コンサートも開催する予定です。

Q3. キアラ館は現在、どのように利用していますか？

A3: まず、何と言っても、その中心は、原則週3日開催される大学チャペルです。多くの学生は、チャペルでの奨励(講話)もさることながら、キアラ館礼拝堂の荘厳かつ落ち着いた雰囲気に癒されると、口を揃えております。また、大学の前・後期のキリスト教講演会、シンフォニエッタ・キアラによるコンサート、学園クリスマスや大学クリスマスなどのクリスマス関連行事、大学看護学部の宣誓式、そして、中学校の卒業記念礼拝などがほぼ定期的に行なわれています。さらに、特筆すべきは、本学園卒業生の結婚式でしょうか？(ちなみに、私自身も、約30年前にキアラ館礼拝堂で挙式し、良き思い出となっております。) なお、キアラ館には、学園キリスト教センター事務室の他、学園資料センター、黙想できる「メディテーション・ルーム」、学園と教会の連携の場「リエゾン・オフィス」などもあります。



Q4. キアラ館基金ではこれまでどのような寄附事業を行ってきましたか？

A4: まずは、尊いご寄附を、キアラ館基金はじめ、学園のためにくださいました皆様に、心より感謝を申し上げます。キアラ館基金へのご寄附では、主に、キアラ館に必要な備品を購入しました。コロナ対策で緊急に必要となった設置型体温計を購入し、設置。また、大学チャペルには欠かせない、パワーポイントを映し出すスクリーンですが、大型ワイドサイズのもので、運搬・移動にも優しい軽量のものを買わせていただきました。加えて、楽譜の譜面台を代用していた司会者卓を、キアラ館に見合うものにさせていただきました。さらには、キアラ館の諸室で使われていた、建設当以来の老朽化したイスを、スタッキングも可能な軽量のものに交換させていただきました。その他、キアラ館の修繕の一環として、礼拝堂のステージ上ベンダント・ライトがしばらく使用不可能だったのですが、数年ぶりに直すことができました。ここに感謝を持ってご報告致します。

Q5. 今後、キアラ館をどのように利活用していく予定ですか？

A5: 癒しの空間であるキアラ館は、学園の宝であるとともに、地域の財産でもあると、自負しております。よって、大学チャペルのようなものだけでなく、より地域に開かれた講演会なども開催していただけたらと思います。また、音響もとてもいいキアラ館ですし、世にも珍しいベルギー製の木製パイプ・オルガン(パイプも木製！？)も設置されておりますので、どなたでも気軽に楽しめるコンサートなども開催したいと考えております。そのようなことを通して、“ウェル・ビーイング”が叫ばれる昨今、本学園の園児・生徒・学生並びに教職員のみならず、地域の皆様にも“癒し”の時、“満たし”の場を提供できたらと思います。名付けて<プロジェクトK(キアラ)>です！?

※ キアラ館を見学ご希望の方は、事前に学園キリスト教センターまで、お電話またはメールでご連絡ください。
電話 : 0294-52-3215㈹ (平日9:00~16:45)
メール : kiara@icc.ac.jp

キアラ館基金への
ご寄附はこちらから



ICグローバル人材育成奨学基金による奨学生メッセージ

G.R.E.A.T. Program
高等学校 2年
岩間 優希奈さん
アビーリングクリスチヤン大学（アメリカ）に留学



私はこの留学期間中にコロナウイルスに感染し、予期せぬ苦労が多くありました。3週間しかない留学期間の1週間はアパートで療養していたため、やれるはずだったことができず悔しいと感じることもありました。ただそれを乗り越え、その後の授業や生活で自分なりのアプローチの仕方を見つけ、それによって成長することができたようにも感じます。このような経験ができたのは、周囲のさまざまな支援・協力（奨学金など）があったからこそだと思い、心から感謝しています。

特殊演習 履修生
大学文学部 児童教育学科 2年
原田 萌楓さん
ハワイパシフィック大学（アメリカ）に留学



この度は奨学金のご支援をしていただきありがとうございます。現地では、小学校における英語教育法を学ぶだけでなく、一緒に参加した現役の先生方との対談、HPUの学生との交流等貴重な体験ができました。また、困った様子でいると、当たり前のように手を差し伸べてくれる海外の人の優しさをとても感じました。将来は世界で活躍する教師になりたいと考えています。皆様のおかげで貴重な経験ができたこと、今一度心よりお礼申上げます。

春期海外語学 研修生
大学文学部 現代英語学科 2年
小室 百花さん
ワイカト大学カレッジ（ニュージーランド）に留学



私のクラスでは、教室では英語のみというルールが設けられ、先生はもちろん他の日本人学生とも英語で話していました。初めは英語でコミュニケーションを取りることが不安でしたが、そのような環境のおかげで不安が徐々に無くなっていました。英語だけではなく、ニュージーランドの文化についてもたくさん学ぶことができ、海外留学を体験することができ良かったです。

大学留学生
ザビヤカ・イリナさん
リヴィウ大学（ウクライナ）



私は日本に来てから、絶対なるべくいろいろな経験したいと決めました。ヨーロッパと比べたら、文化も、食べ物も、言語も全然違うから、最初のカルチャーショックが大変で、どこを見ても、全部のものは新しいから、試してみるしかなかったです。しかし、先生たちや友達がいつも手伝ってくれて、徐々に日本の生活に慣れてきました。もちろん、今まで食べたことない食べ物を食べたり、見たことないところへ行ったりできるように資本が必要で、奨学金がなかったら、絶対最初に困ると思います。それで、奨学金をもらえて心からありがとうございます。新しく、楽しい経験ができるように支援してくださいってありがとうございます！

大学留学生
コッティーニ・マッテオさん
ミラノ大学（イタリア）



日本語と日本文化の勉強のために、6年以上を捧げ、日本へ留学の機会をいただき感謝しております。この素敵な国との文化と日本語への理解を深めながら、多くの美しい人々と出会い、茨城県での学生生活を楽しみ、海外で一人暮らしの困難を乗り越えることができました。将来は、自国と日本の架け橋であり続けたいと願っておりますので、これからも精一杯頑張ります。

大学留学生
レ・ティ・タイン・ヒエンさん
ホーチミン市テクノロジー大学（ベトナム）



1年間の留学中に24万円の奨学金をいただき、私にとっては非常に貴重な金額でした。バイトの給料と共に生活費を支払うお金が増えるので助かりました。おかげで、少し余裕ができる、日本のあちこち旅行できるようになりました。良かったと思います。奨学金を与えてくださいって、心から本当にありがとうございます。将来、私は日本語翻訳者になりたいです。1年間留学して、日本の文化、日本人の働き方、日本語でのレポートの書き方や日本の小説を読んで感じることなどないように様々なことが勉強になりました。それは私の将来の仕事に非常に役立つと思います。